

# パンタール通信

南北米福地開発協会

会報

2008年10月1日

61号



エスペランサ村植樹活動（学校、公園の敷地、メイン通り）終了後の記念撮影

## 青ボ隊活動を終えて。（三石昭治隊長より）

今年の参加者は男性4人、女性4人の総数8名であった。その多くが日本での中高生などを教育し指導する立場の人たちだったのが今までと異なる点だった。自分たちが得る感動や感激を、日本にいる更に若い中高生に如何に伝えるかを常に思いながら、この活動期間に臨んでいたように見受けられた。

日本にある彼らの日常から抜け出て体験する、南米での非日常は正に大きな差異を伴った非日常だったことだろう。地軸の反対にある、しかも南半球の気候と環境の差異に五感の生理がまず驚く。そして、言葉やメンタリティーの異なる人々との出会い、交流を通して心理的五感とでもいうようなものが驚嘆する。一般にカルチャーショックと呼ばれるのだが、海外でのボランティア活動においては不可避なものであろう。そしてこれが青ボ隊活動の重要な要素でもある。

今まで何回か、青ボ隊の活動に引率者として参加し感じることは、このショックが好奇心的、観光的ショックでなくして、むしろ多少の苦痛や困難を伴うものがあつたほど、ボランティア活動の意義や価値に深く係わることが出来ると思う。自分が生まれ育ち慣れ親しんだ当たり前のことが、実はそうではなく、世界にある様々な現実を自らも痛みや、苦痛を持って共有体験してみる。これが青ボ隊活動には不可欠な要素であることを今回も痛感した。（4Pに続く）





村長からの歓迎の挨拶



日本からの文具のプレゼント

エスペランサ村での植樹活動（学校、公園、メイン通り）







お早うございます。

今回色々な体験をすることが出来る機会を与えてくださったことに、級友を代表して深く感謝いたします。

グループで活動することの大切さ、すばらしさを体験できて感謝しています。

人生の中で1度しか味わえない青春の大切さをよく理解して、これから勉強に専念し家族と、人々、そして何よりも創造主である神様を愛して一生懸命頑張ります。

この数日は、共に過ごした素晴らしい日々でありました。皆様といっしょにニームの植樹活動をしたのですが、それを通じて皆様と触れ合った心の感動と喜びは、植えられたニームの木のように、僕達の心の中に深く植えつけられました。

一緒にゲームをしたり、歌をうたったり、楽しい事をたくさん経験した事は永遠に忘れられない思い出となりました。皆様と共に植えたニームの木を大切に守り、育てることを約束します。ありがとうございました。

(エスペランサ村小学校代表)





(1pからの続き)

今回は全日程、好天候に恵まれた。パンタナール地方の冬季の厳しさを体験することになった。冬季でも日中は気温が四〇度近く上がる、灼熱の太陽の下での厳しい植樹労働は体験できなかった。カラッと晴れた空の下、涼しい風がわたり植樹の労働も食事を美味しくするための軽い運動にも劣るものだったかもしれない。

しかし苦痛が伴う奉仕労働は無かったけれど、今回は隊員たちのリーダーシップ的エンターテインメントで何処でも歌や踊りでの盛り上がり、喜ばれ評価された。エスペランサ村で教えた日本語での新しい歌、「幸せなら手をたたこう」はインディヘナの子供たちの新レパートリーとなった。

報恩太鼓踊りは、ラ・コルメーナの日本人移住地でも喜んでもらえた。隊員たちの、ギター伴奏で歌う歌は何処でもハーモニーの盛り上がりがあり、すばらしかった。

最後に、期間中参加者全員が何らかの体不調がありはしたが、天候において、人々との出会い、タイミングにおいて、なんと幸運な今回の青ボ隊の人々なんだろうという印象が強く残っている。

今年も背後での多くの人々の支援、協力があった。パンタナールにおける青ボ隊活動が無事終了できた。アスンシオンの空港に見送る時、皆が満ち足りたとてもいい顔で日本への帰路に就いてくれた。グラーシアス！

Dios bendiga ! May God bless you all !



レダにおけるニームの木の植林(5000本)



2007年5月に植える。

今日(八月二八日)からレダでの植林活動になりました。すでに青年達が来る前に植林の場所を準備してくれており、十ヘクタール程の土地が植林の場所として開墾され、そこに植林ができるように穴を掘り、腐葉土を入れ、マウンドが出来ていました。

青年達の植林の場所は森の近くでジャトロファの植林の隣、すでにニームが一部植えられておりその延長上に新たに付け加えていく形でした。一つ一つのニームの苗を大事に植林をする場所に運び、苗木を入れる穴を掘って、その中に水を入れ、その後、苗を土のついたまま置き、その後、周りに土をかぶせ、水を再び注ぎ、木の周りに枯草を置いて、直射日光から周りの土地が守り、終わります。

青年達は一つ一つを大切に植林をし、一直線上に並ぶように糸を引いて丁寧に植えていました。

(柴沼記)

南北米福地開発協会 事務局

〒二二二一〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二一

Fax

八二九一二八二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八 〇一七七六八〇四七一

E-MAIL office@asd-nsa.jp  
ホームページ  
http://www.asd-nsa.jp